「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業」

活動報告書

平成２７年４月

特定非営利活動法人 つれもてネット南紀熊野

〒646-0011　和歌山県田辺市新庄町 1442 番地

http://www.tsuremote.net

目　次

１、はじめに　Ｐ　１

２、事業概要　Ｐ　２

３、研修会を実施した地区　Ｐ　４

４、研修会で使用したＩＣＴ機器　Ｐ　５

５、研修会の記録　Ｐ　８

６、ＩＣＴ機器貸出とコミュニティ講座　Ｐ２２

７、参加者の声　Ｐ２７

８、実行委員所見　Ｐ２９

９、おわりに　Ｐ３５

１、はじめに

特定非営利活動法人つれもてネット南紀熊野は、田辺市及び周辺町の協力を得て独立行政法人福祉医療機構平成 26 年度助成事業「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業」を行いました。　この中で、地域づくりを ICT で支援する為にタブレット端末を使った研修会を和歌山県南部の川筋の過疎集落 8 か所で 69 回行いました。

この研修会への参加者は、延べ１,000 人近くに達し、タブレット端末を利用して ICT を活用することで、趣味の幅を広げ、日常生活の利便性も向上させたいという高齢者（概ね 65 歳以上）が多いことを実感しました。

高齢者が ICT を活用する上でネックになっていた入出力操作が、音声・手書きなどで出来ること、パソコン画面に表示される字が小さく見づらかった点がタブレット端末では画面のタッチ操作で容易に文字の拡大縮小が出来ること等が関心を高める理由となって、タブレット端末が高齢者の扱う道具として使い勝手が良いことを実証できました。

このことから、事業の目的としていた過疎集落での高齢者のコミュニティづくりについては、「コミュニティ講座」の制作などの成果にもつながりました。　しかし、研修会実施地域の特性、特に地域リーダの有無、参加者のコミュニティづくりに対する取り組み方の違いから出来上がった「コミュニティ講座」に地域差が出ました。　高齢者が多く住む過疎集落においては、その地域の特性に合わせた個別の対応が必要なことをあらためて認識しました。　過疎集落に住む ICT 環境になじんだ高齢者が、そうでない高齢者に、社会環境の変化（ネットショッピング、ネットバンキング、テレビ電話など）を同じ目線（過疎集落生活者、高齢者など）で何度でも繰り返し啓発してゆくことが大切であることを認識しました。

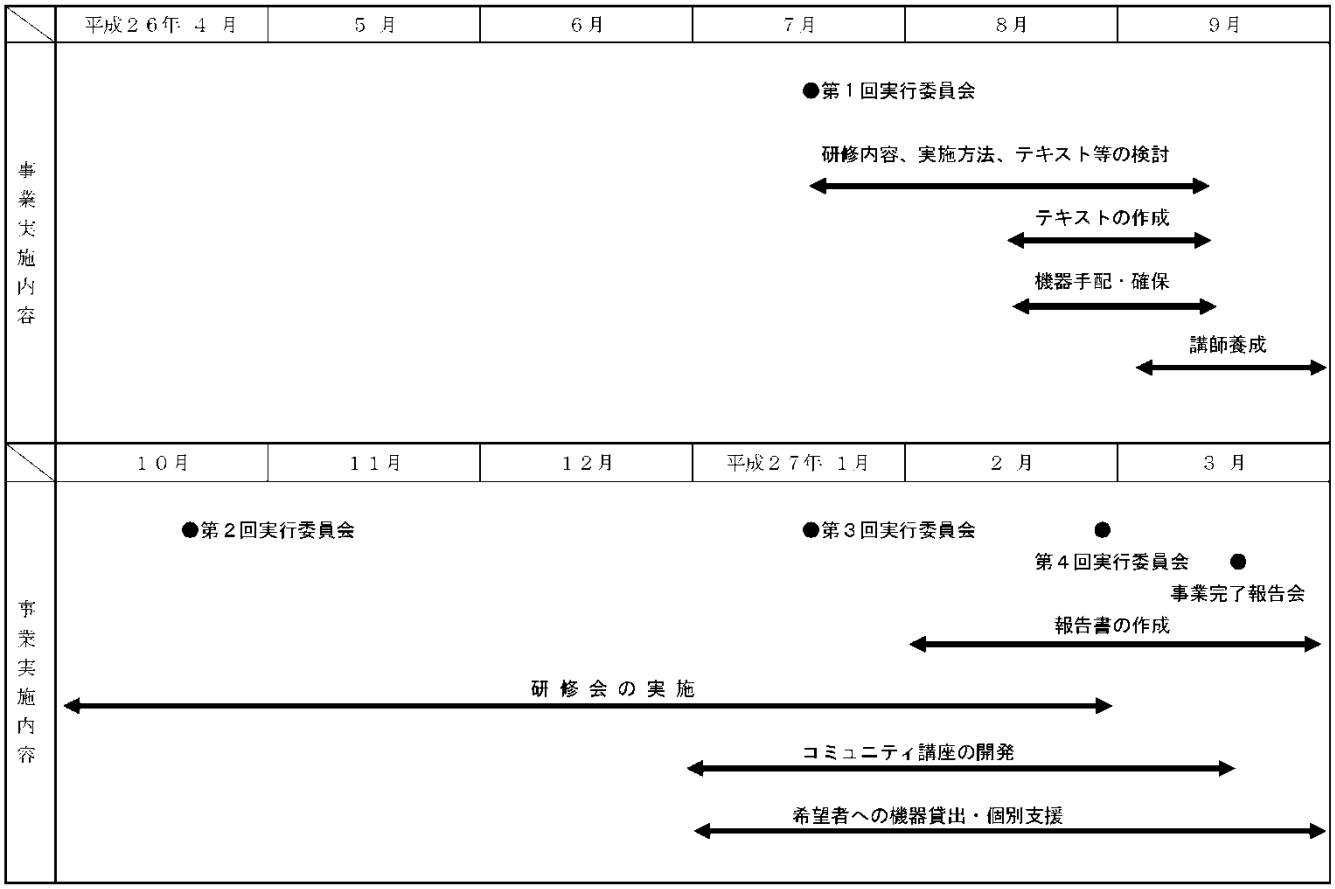
特定非営利活動法人つれもてネット南紀熊野の取り組みは、高齢者を対象に ICT を活用してコミュニティづくりを進めようとする活動ですが、この研修会への参加者から終了後、「この後、私たちはどこへ行けばいいんだ！」という意見が寄せられています。　川筋の過疎集落を対象に研修会を行ってきたことから、この地域に住む高齢者の災害への関心の高さも再認識しました。

遠方にいる子供や孫とのつながりを再確認するコミュニケーションツールとして、又、日常生活の利便性を向上させるツールとして、タブレット端末利用の幅を広げることへの支援に加えて、これからは、過疎集落に住む高齢者にも趣味の領域を超えた社会参加・社会貢献への更なる意識付けを進めたいと考えています。

２、事業概要

過疎地域に住む高齢者が、タブレット端末(ASUS社製アンドロイド端末ME-181C)の活用方法を学ぶことで、様々なアプリを利用して生活の利便性を、又、テレビ電話の利用や・コミュニティ講座づくりなどで親族や近隣の人々との「つながり」を体感すること等を目的に、つれもてネット南紀熊野のシニア情報生活アドバイザーが地元行政、関係団体などと協働して過疎地域に住む高齢者を対象にタブレット研修会、コミュニティ講座づくりを行った。

１）事業実施スケジュール



２）実行委員会の設置

イ）過疎地域に住む高齢者の日常生活の利便性を高めるためにタブレット端末とインターネットの活用について学ぶ研修会の内容を検討した。

ロ）過疎地域に住む高齢者が親族や近隣の人々との「つながり」を確認し、地域情報を発信する為の「コミュニティ講座」の内容、開発手順を検討した。

３）実行委員会の実施記録

イ）第１回　2014 年 ７月 18 日（金）15 時～　田辺市民総合センター
ロ）第 2 回　2014 年 10 月 17 日（金）15 時～　和歌山県立情報交流センター
ハ）第 3 回　2015 年 1 月 16 日（金）15 時～　和歌山県立情報交流センター
現地視察：田辺市大塔・富里連絡所
二）第 4 回　2015 年 2 月 27 日（金）15 時～　和歌山県立情報交流センター
現地視察：田辺市ひがし公民館
ホ）事業完了及びコミュニティ講座報告会
2015 年 3 月 14 日（土）13 時～　和歌山県立情報交流センター

４）実行委員として参加いただいた方々（敬称略）

イ）佐藤　周　　和歌山大学 経済学部教授
ロ）小松　実　　田辺市 情報政策課長
ハ）川村　健三　一般財団法人ニューメディア開発協会シニアネット推進グループ部長
二）山根　明　　NPO 法人シニア SOHO 世田谷　代表理事
ホ）福森　宏昌　NPO 法人シニアネット光 代表理事
へ）道本　浩司　NPO 法人わかやまＮＰＯセンター 理事長
ト）千品　雅彦　NPO 法人つれもてネット南紀熊野 代表理事

５）事業実施に連携して協力いただいた団体

イ）田辺市役所
ロ）一般財団法人 ニューメディア開発協会

尚、連携して協力いただいた団体から、実行委員として関係部門の方に参加いただいた。

３、研修会を実施した地区

研修会は、下図に示す和歌山県南部の川筋の過疎集落 8 か所で 69 回行った。

【　実施会場　】
（インターネット接続環境）

１、田辺市本宮行政局（無線ＬＡＮルータ）
２、田辺市龍神市民センター（無線ＬＡＮルータ）
３、田辺市中辺路コミュニティセンター（無線ＬＡＮルータ）
４、田辺市大塔・冨里連絡所（無線ＬＡＮルータ）
５、みなべ町みなべ生涯学習センター（無線ＬＡＮルータ）
６、白浜町市鹿野地域活性化センター（ポケット WiFi）
７、白浜町日置・安居出張所（ポケット WiFi）
８、新庄愛郷会館（無線ＬＡＮルータ）

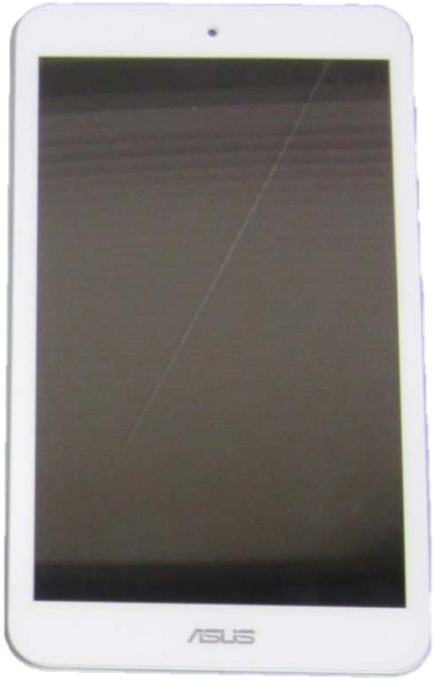
４、研修会で使用した ICT 機器

研修会で使用した ICT 機器を以下に示す。

１）タブレット端末　…　ASUS 社製アンドロイド端末（ME-181C）

サイズ⇒8 インチ、厚さ⇒8.3mm、重量⇒320ｇ、

駆動時間⇒最大 9 時間



タッチパネル面

専用保護カバー装着時

裏面

２）インターネット接続環境

イ）無線 LAN ルータ

インターネット接続環境はあるが、無線環境にない研修会場（みなべ、新庄）で使用

ロ）ポケット WiFi

・インターネット接続環境にない研修会場（安居、市鹿野）で使用

・研修会実施時にインターネット接続が集中した際に使用

３）無線アダプター　…　ASUS 社製ミラーキャストトングル

・講師用タブレット端末の画像を見せながら講師が自在に研修会場内を移動出来るようにする為に使用

４）プロジェクター　…　ASUS 社製小型プロジェクター「S1」

・手のひらサイズのバッテリー内蔵コンパクトプロジェクター

無線アダプター装着時

５）接続形態

・多様な会場で使用する為、比較的環境に左右されにくいこと、研修会場間を頻繁に移動する為、小型軽量であることを条件にして機器を選定した。

５、研修会の記録

１）講師講習会（講師事前学習）

研修会を始めるにあたり、事前に６日間（土、日）の講師講習会を行った。
講師参加者は約２０名

２）研修会の運営

イ）研修会の講師及びサポータは、講師講習会を受講したつれもてネット南紀熊野のシニア情報生活アドバイザー（概ね 60 歳以上の高齢者）が担当し、研修会参加者である高齢者（平均年齢約 70 歳）にタブレット端末の操作や、アプリの利用方法について、研修テキストに基づいて理解するまで個別に繰り返し何回でも説明することを基本とした。

ロ）研修会の会場は、和歌山県田辺市、白浜町、みなべ町の過疎地区でインターネット接続環のある公民館など、主に行政が所管している社会教育施設を利用して行った。施設利用にあたっては、地元行政の許可を得て行ったが、インターネット接続環境のない施設では、つれもてネット南紀熊野が研修会場としての環境も含め整備した。

ハ）研修会の参加者募集は、つれもてネット南紀熊野が行った。又、田辺市を中心にした研修会実施地域の行政は、公民館報などを通じた広報による募集及び関係部署への周知を行った。

二）研修会参加者は、地域の実態に合わせて 1 回当り 10 人～20 人とした。

ホ）研修会は、主に午前（3 時間）を機器セットアップに充て、午後（3 時間）を研修会とすることを基本にし、秋の農繁期のことを勘案して参加しやすい曜日、時間帯を地域毎に設定した。

へ）研修会は、4 日間を 1 コースとし、1 日当たり 3 時間の研修会を地域毎に指定曜日を設定し、月間連続して行った。　地域毎に曜日を違わせたのは、講師、サポータ、使用機器確保の為である。

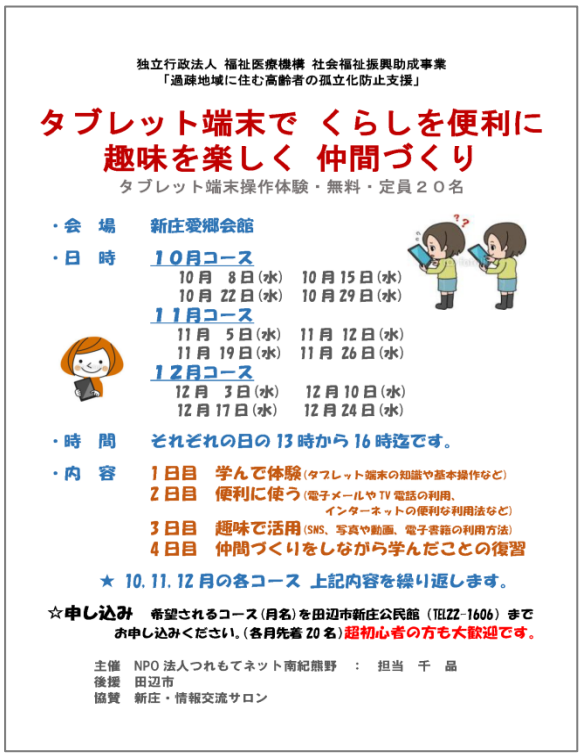
【研修会実施曜日、実施月（コース数）】

田辺市…龍神地区	：	木曜日、10～12 月（3 コース）
本宮地区	：	金曜日、10～12 月（3 コース）
中辺路地区	：	土曜日、10～11 月（2 コース）
大塔地区	：	金曜日、10～11 月（2 コース）
新庄地区	：	水曜日、10～12 月（3 コース）
白浜町…市鹿野地区	：	火曜日、1～2 月（2 コース）
安居地区	：	金曜日、1～2 月（2 コース）
みなべ町…みなべ地区	：	火曜日、10～11 月（2 コース）

３）研修会の案内

イ）研修会場掲示チラシ

ロ）案内チラシ



独立行政法人 福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援」

タブレット端末で くらしを便利に
趣味を楽しく 仲間づくり

タブレット端末操作体験・無料・定員２０名

・会　場　新庄愛郷会館

・日　時　１０月コース
10 月 8 日(水)　10 月 15 日(水)
10 月 22 日(水)　10 月 29 日(水)
１１月コース
11 月 5 日(水)　11 月 12 日(水)
11 月 19 日(水)　11 月 26 日(水)
１２月コース
12 月 3 日(水)　12 月 10 日(水)
12 月 17 日(水)　12 月 24 日(水)

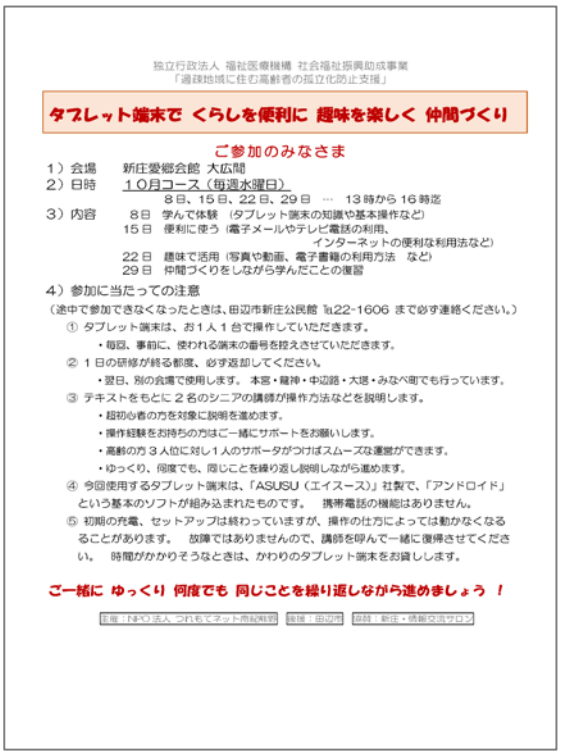
・時　間　それぞれの日の 13 時から 16 時迄です。

・内　容　1 日目　学んで体験(タブレット端末の知識や基本操作など)
2 日目　便利に使う(電子メールや TV 電話の利用、インターネットの便利な利用法など)
3 日目　趣味で活用(SNS、写真や動画、電子書籍の利用方法)
4 日目　仲間づくりをしながら学んだことの復習

★ 10. 11. 12 月の各コース 上記内容を繰り返します。

☆申し込み　希望されるコース(月名)を田辺市新庄公民館（TEL22-1606）まで
お申し込みください。(各月先着 20 名)超初心者の方も大歓迎です。

主催　NPO 法人つれもてネット南紀熊野　：　担当　千　晶
後援　田辺市
協賛　新庄・情報交流サロン



独立行政法人 福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援」

タブレット端末で くらしを便利に 趣味を楽しく 仲間づくり

ご参加のみなさま

1）会場　新庄愛郷会館 大広間
2）日時　１０月コース（毎週水曜日）
8日、15日、22日、29日 … 13時から16時迄
3）内容　8日 学んで体験 (タブレット端末の知識や基本操作など)
15日 便利に使う (電子メールやテレビ電話の利用、インターネットの便利な利用法など)
22日 趣味で活用 (写真や動画、電子書籍の利用方法 など)
29日 仲間づくりをしながら学んだことの復習

4）参加に当たっての注意
(途中で参加できなくなったときは、田辺市新庄公民館 ℡22-1606 まで必ず連絡ください。)
① タブレット端末は、お１人１台で操作していただきます。
・毎回、事前に、使われる端末の番号を控えさせていただきます。
② １日の研修が終る都度、必ず返却してください。
・翌日、別の会場で使用します。 本宮・龍神・中辺路・大塔・みなべ町でも行っています。
③ テキストをもとに２名のシニアの講師が操作方法などを説明します。
・超初心者の方を対象に説明を進めます。
・操作経験をお持ちの方はご一緒にサポートをお願いします。
・高齢の方３人位に対し１人のサポータがつけばスムーズな運営ができます。
・ゆっくり、何度でも、同じことを繰り返し説明しながら進めます。
④ 今回使用するタブレット端末は、「ASUSU（エイスース）」社製で、「アンドロイド」という基本のソフトが組み込まれたものです。 携帯電話の機能はありません。
⑤ 初期の充電、セットアップは終わっていますが、操作の仕方によっては動かなくなることがあります。 故障ではありませんので、講師を呼んで一緒に復帰させてください。 時間がかかりそうなときは、かわりのタブレット端末をお貸しします。

ご一緒に ゆっくり 何度でも 同じことを繰り返しながら進めましょう ！

主催：NPO 法人 つれもてネット南紀熊野　後援：田辺市　協賛：新庄・情報交流サロン

４）研修会の内容

１日目

講座内容

○ 講座名：１日目 学んで体験（タブレット端末の知識や基本操作など）

進め方とポイント（180 分）

時間	項目	説明・ポイント	備考
0'00"-0'20"	あいさつ 参加のお礼、 講師紹介 受講者紹介	講座概要説明 諸注意 受講者一人づつ、名前や住まい、パソコン歴を発表していただく できれば趣味も聞き出したい。	講師も質問しながら 参加者のインターネットの認識度を確認 ・パソコンでインターネットは使っていますか？ ・携帯電話でメールしていますか？等
0'20"-0'35"	いま話題のタブレットとは	タブレットの種類を説明しながら、知ってる、持っている品名に挙手を求める 今回の講座では、アンドロイドの端末を使用することを説明	作っている会社が違うと、操作方法や機能が異なることを補足 今回使うタブレットのいいところを説明する
	タブレットの５つの魅力	パソコン、スマートフォント比べながら、タブレットの魅力を引き出す	参加者の趣味を聞きながら、こんなときにタブレットが役に立つ等の話題を振る
0'35"-1'00"	タブレットの基本	タブレットの各部の名称と役割 ・各ボタンの位置 ・カメラ、マイクの位置 タブレットの基本操作 ・電源のオン・オフ ・音量の調整 タッチ操作の練習 ・タップ…太鼓をたたく ・ドラッグ、スワイプ…なぞる ・フリック…はらう ・ピンチ…洗濯ばさみのようにつまむ、広げる ※時間に余裕があれば ホーム画面の壁紙の変えてみる	ひと通りの名称を説明しながらも、電源ボタンと音量ボタンだけ覚えていただく 指ですべての操作が可能であることを強調 タッチペンも使えることを補足する

1'00"-1'10"	休憩（10 分）		
1'10"-1'50"	（つづき） タブレットの基本	・文字入力の練習 「メモ帳」アプリ ・タップ入力 ・フリック入力 ・予測変換の表示確認 ・文節の区切り ・入力モードの切り替え ・フルキーボードの切り替え	今回の講座では、調べることが出てくるため、ここでできるだけ、文字入力をマスターする。
1'50"-2'00"	休憩（10 分）		
2'00"-2'15"	（つづき） タブレットの基本	音声入力の紹介 ・富士山 ・料理名（レシピ検索） ・水（ショッピングサイト）	マイクの位置を確認 話すタイミングも必要なので、サブ講師は要フォロー 認識されたキーワードによってどんな HP の検索ができるか確認する
2'15"-2'45"	おすすめアプリで 今日のおさらい	タップ操作のおさらい 「タッチ・ザ・ナンバー」 フリック操作おさらい 「日本地図パズル」 文字入力のおさらい 「フリックマスター」 音声入力のおさらい 「Google 翻訳」	楽しみながら、頭のトレーニングになることを説明 どんな場面でアプリを活用できるかも一緒に説明できると良い
2'45"-3'00"	質疑応答 あいさつ	次回の講座の内容 今回のテキストも持参すること	受講者の体調や様子を見ながら、終了時間を早めに切り上げることも考慮。

☆講座前後の確認事項
・充電 90%以上
・ホーム画面のすべての端末で並び統一
・アプリのインストール、表示位置、初期画面
・フォントサイズ→極大に設定
・キーボードの初期表示を揃える
・受講生の使用する端末は固定する

２日目

講座内容

○ 講座名：２日目便利に使う
（電子メールやインターネットの利用法）

進め方とポイント（180 分）

時間	項目	説明・ポイント	備考
0'00"-0'10"	あいさつ		
0'10"-0'35"	前回のおさらい	・ボタンやカメラの位置 ・電源のオン／オフ ・音量の調整 ・タッチ操作のおさらい ・文字入力のおさらい	文字入力はしっかりおさらいをしておく！
0'35"-0'50"	タブレットとインターネットでできること	こんなことができます♪ ・調べごと ・テレビ電話 ・買い物 ・メール ・音声認識	受講生に質問しながらインターネットの認識度を確認 ・パソコンでインターネットは使っていますか？ ・携帯電話でメールしていますか？等
	インターネットに接続するためには	Wi-Fi って何？ Wi-Fi で接続する手順	種類によってタブレット端末だけではインターネットにつなげられないことを強調
0'50"-1'00"	休憩（10 分）		
1'00"-1'45"	インターネットを使ってみよう	調べごとをしてみよう ・Yahoo！Japan を開く ・週間天気をみる …ピンチアウト …タップ、ドラッグ ・ページの戻り方を説明 検索をしてみよう ・市役所、レシピ、 ・受講生が好きそうな TV 番組 地図を見てみよう ・Google Maps を使う 買い物をしてみよう ・水を検索	季節に応じた桜や紅葉の情報をみる ・パソコンと同じように表示されることを説明 ・パソコンの立ち上がる時間を待たなくても、タブレットですぐ情報を探せることを補足 音声認識でも検索をしてみる

1'45"-2'00"	休憩（15 分）		
2'00"-2'15"	アプリをつかってみよう おすすめアプリの紹介	アプリって何？ ・「天気・R」 Yahoo で検索しなくても、アプリですぐ確認できることを補足 ・「産経新聞」 毎日（号外除く）新聞の一面を無料で閲覧できる。 インターネットがつながらなくても使えるアプリがあることを説明！ ・電卓 ・ミラー	アプリ＝道具 自分の必要な道具をインターネットから簡単に追加できる 前回使用した フリックマスターや パズルもアプリであることを説明 アプリの説明をするときは、自分の使用イメージを説明する
2'15"-2'45"	メールを送ってみよう	携帯やパソコンなどどんな端末にもメールを送ることができることを説明 メールを送るシチュエーションや、どんな時に役立つか説明を加える ・メールの作成 ・メールの送信 ・メールの返信	受講生のメールアドレスはあらかじめ登録 自分のメールアドレスの調べ方も補足説明 メールマナーを補足説明 相手に見やすい、理解しやすいメールの書き方とはを考えていただく
2'45"-3'00"	質疑応答 あいさつ	次回の講座の内容	受講者の体調や様子を見ながら、終了時間を早めに切り上げることも考慮。

☆講座前の確認事項
・充電 90%以上
・ホーム画面のすべての端末で並び統一
・アプリのインストール、表示位置、初期画面
・フォントサイズ→極大に設定
・キーボードの初期表示を揃える
・受講生の使用する端末は固定する

３日目

講座内容

○ 講座名：３日目 趣味で活用（写真を撮る、いろいろなアプリの紹介）

進め方とポイント（180 分）

時間	項目	説明・ポイント	備考
0'00"-0'10"	あいさつ		
0'10"-0'35"	前回のおさらい	・インターネット検索 ・地図を見る ・メールの作成送信、返信	
0'35"-1'00"	写真を撮ってみよう	カメラの位置を確認 ・インカメラ、バックカメラ 写真撮影の練習 ・横に持つ ・シャッターの位置 ・インカメラの切り替え 撮った写真を見る方法 削除方法も	どこに保存されるのか 強調して説明 削除を必ず説明
1'00"-1'10"	休憩（10 分）		
1'10"-1'20"	インターネットでつながろう	田辺市の Facebook ページを閲覧 →田辺市の HP から入る	Facebook は近況を投稿するサービスであり、自分から情報発信することができる 登録はこの研修ではしない。この先続く講座であることを説明。
1'20"-1'50"	電話をかけてみよう	「Skype」 ・インターネットを使う テレビ電話 ※講師がお手本 ・電話を掛ける （できれば市外の人に） もしくはかけてもらう ・連絡先の探し方 ・メッセージの送り方	パソコンやスマートフォンでも使えることを説明 一斉に Skype 使うと インターネットが切れたり、音が二重に聞こえるため、順番を考える。

1'50"-2'00"	休憩（10 分）		
2'20"-2'45"	おすすめアプリの紹介	「ピアノ」 「LINE CAMERA」 「将棋」 「青空文庫」	
2'45"-3'00"	質疑応答 あいさつ	次回の講座の内容	受講者の体調や様子を見ながら、終了時間を早めに切り上げることも考慮。

☆講座前の確認事項
・充電 90%以上
・ホーム画面のすべての端末で並び統一
・アプリのインストール、表示位置、初期画面
・フォントサイズ→極大に設定
・キーボードの初期表示を揃える

４日目

講座内容

○ 講座名：４日目　３日間を通して学んだことの復習

進め方とポイント（180 分）

時間	項目	説明・ポイント	備考
0'00"-0'10"	あいさつ		
0'10"-0'50"	本日の内容	３日間を通して学んだことの復習 各地域で好評だったアプリをおさらい	適宜休憩をとりながら １時間に 10 分
2'40"-3'00"	質疑応答 あいさつ	次回の講座の内容	受講者の体調や様子を見ながら、終了時間を早めに切り上げることも考慮。

５）研修会の実施地区

研修会は、8 地区で行ったが、各地区類似した記録となる為、ここでは代表して本宮（山間部）、新庄（市街地）の 2 地区を事例として示した。

イ）田辺市本宮地区

（１０月）

（１１月）

（１２月）

平成26年度ＷＡＭ助成事業報告　～過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業～

（アンケート集計）

１、地域名　田辺市本宮町

２、会場名　本宮教室

３、利用者総数　79 名

４、回答者総数　71 名

５、回答率　89.9 %

６、アンケート

設問１：タブレット講座の内容全般について満足したか

とても満足	25
満足	39
やや不満足	5
不満足	
計	69

設問２：（設問１で「とても満足」「満足」選んだ方）どのような点が良かったですか

役立つ情報が得られた	26
日頃の生活や活動に役立った	31
スキルアップにつながった	18
他の参加者との交流・情報交換が図られた	10
抱えていた問題・不安解消につながった	1
その他	1
計	87

設問３：（設問１で「やや不満足」「不満足」選んだ方）どのような点が良くなかったですか

役立つ情報が得られなかった	1
日頃の生活や活動の参考にならなかった	
スキルアップにつながらなかった	
他の参加者との交流・情報交換ができなかった	
抱えていた問題・不安解消につながらなかった	
その他	
計	1

特記事項（アンケートから）

楽しかった、楽しい雰囲気でよかった、面白い、十分理解できない、少し難しい
もっと頑張る、スカイプを勉強した、色々な事がわかると楽しくなってきた
少しわかったかな、Wi-Fiのほとんどつながらない本宮で何の役に立つのか
最初から来ればよかった、正月にでも勉強します、接続設定が役に立つ

平成26年度ＷＡＭ助成事業報告～過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業～

（参加状況）

１、地域名　本宮地区

２、会場名　本宮教室

３、参加状況（参加人数）

月	週	参加者	サポータ	講師	計
10月	1週目	9	0	2	11
	2週目	8	0	2	10
	3週目	8	1	2	11
	4週目	7	5	2	14

月	週	参加者	サポータ	講師	計
11月	1週目	6	0	2	8
	2週目	6	0	2	8
	3週目	6	0	2	8
	4週目	7	0	2	9

月	週	参加者	サポータ	講師	計
12月	1週目	6	0	2	8
	2週目	7	0	2	9
	3週目	4	0	2	6
	4週目	5	0	2	7

	月	参加者	サポータ	講師	計
延べ合計	10月	32	6	8	46
	11月	25	0	8	33
	12月	22	0	8	30
	合計	79	6	24	109

1）参加者実数　12 人

2）参加者男女構成比：男（　4人）　女（　8人）

3）平均年齢：　73 歳

４、特記事項（参加状況から）

位置的な問題(一番遠い)があったのか、サポーターの参加はほとんど得られませんでした
そんな中で、受講者がお互い教えあうような雰囲気が出来上がり、順調に進みました
ただ、教室から一歩出ると使える場所が無く、そのあたりの事を皆さん気になさってます
講師、受講者友の希望として、インフラの整備を早く進めていただきたいです

ロ）田辺市新庄地区

（１０月）

（１１月）

（１２月）

平成26年度ＷＡＭ助成事業報告　～過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業～

（アンケート集計）

１、地域名　田辺市新庄町

２、会場名　新庄教室

３、利用者総数　191 名

４、回答者総数　156 名

５、回答率　81.7 %

６、アンケート

設問１：タブレット講座の内容全般について満足したか

とても満足	86
満足	61
やや不満足	1
不満足	2
計	150

設問２：（設問１で「とても満足」「満足」選んだ方）どのような点が良かったですか

役立つ情報が得られた	81
日頃の生活や活動に役立った	65
スキルアップにつながった	66
他の参加者との交流・情報交換が図られた	29
抱えていた問題・不安解消につながった	3
その他	
計	244

設問３：（設問１で「やや不満足」「不満足」選んだ方）どのような点が良くなかったですか

役立つ情報が得られなかった	7
日頃の生活や活動の参考にならなかった	
スキルアップにつながらなかった	
他の参加者との交流・情報交換ができなかった	
抱えていた問題・不安解消につながらなかった	
その他	
計	7

特記事項（アンケートから）

・グーグルで家の近くが見れて楽しかった・新しい事にチャレンジできて良かった
・写真でしか、皺は取れませんが面白かった（ラインカメラ）・スカイプ楽しかった
・友達との交流が図れた・無料アプリの楽しみを教えてもらってありがとう
・初心者は先輩たちに気後れする、初心者のみのグループにしていただけたら有難い
・手取り教えて頂いたので、進行について行けました。休まないで良かった、有難う
・受講のスピードが良く、タブレットにスムーズに入って行けました、来週も楽しみ
・ネットが繋がらなくて残念！・講師の声が聞こえなかった・文字入力に苦労した

平成26年度ＷＡＭ助成事業報告～過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業～

（参加状況）

1　地 域 名　田辺市新庄町

2　会 場 名　新庄教室

3　参加状況（参加人数）　（名）

	週	参加者	サポータ	講師	計
10月	1週目	16	5	2	23
	2週目	18	8	2	28
	3週目	19	8	2	29
	4週目	16	8	2	26

	週	参加者	サポータ	講師	計
11月	1週目	20	6	2	28
	2週目	16	6	2	24
	3週目	17	5	2	24
	4週目	14	6	2	22

	週	参加者	サポータ	講師	計
12月	1週目	15	6	2	23
	2週目	16	6	2	24
	3週目	14	4	2	20
	4週目	10	7	2	19

		参加者	サポータ	講師	計
延べ合計	10月	69	29	8	106
	11月	67	23	8	98
	12月	55	23	8	86
	合計	191	75	24	290

1）参加者実数　46 人

2）参加者男女構成比：男　16人（ 34.8% ）　女　30人　（ 65.2% ）

3）平均年齢：　72 歳

4、特記事項（参加状況から）

上手く講座が進められるか心配でしたが、サポーターの方が大勢参加してくださり、毎回、助けられながら進めることが出来ました。
受講者2．５人に一人、サポーターがついた計算になります。
お蔭様で、皆様に喜んでいただける講座になりました。

５、ICT 機器貸出とコミュニティ講座づくり

１）ICT 機器貸出とコミュニティ講座の案内

【募集案内】

タブレット端末の貸し出し
－「コミュニティ講座」制作参加者募集－

2015 年 1 月
ＮＰＯ法人　つれもてネット南紀熊野

１０月から実施していますタブレット研修会に参加された方と、「ＮＰＯ法人つれもてネット南紀熊野」の「シニア情報生活アドバイザー」を中心に「コミュニティ講座」を制作します。
タブレット端末が「新しい仲間づくり」の道具になるように、研修会を実施した地域単位で「コミュニティ講座」を制作しながら考えます。
この講座の制作に参加していただく方々には、平成 27 年 3 月末日までの予定でタブレット端末を貸し出します。
せっかく身に着けたタブレット端末の扱いです。
研修会が終わった後も、暮らしの中で活用できればと思います。

１、対象となる方
・タブレット研修会に参加された方
・ご自宅にインターネット回線（無線）をお持ちの方
・近親の方とインターネットを通じて交流できる方
・ご自身のパソコンをお持ちの方

２、集まる場所
・現在研修会が行われている場所又は Big・U を予定

３、集まる日時
・参加される方々で相談の上決めていただきます。

４、「コミュニティ講座」のポイント
・「新しい仲間づくり」ができること。
…「趣味の講座」「地域のイベント発信」「避難マップづくり」など、内容は参加される方々の間で相談して決めていただきます。
・「新しい仲間づくり」の為のスクーリングをすること。

５、その他
・参加される方には、平成 27 年 3 月末までタブレット端末を貸し出します。　…　4～5 台程度/地域
・タブレット端末のより深い操作方法・アプリの活用方法などについて「つれもてネット南紀熊野」の「シニア情報生活アドバイザー」と一緒に学びます。
・「コミュニティ講座」は、平成 27 年 2 月末までに完成させます。

「コミュニティ講座」の制作に参加をご希望の方は、研修会の講師にご相談ください。
又、タブレット端末の借用をご希望の方は、別紙「機器貸出サービス申込書」に必要事項をご記入の上、申し込みください。

２）ICT 機器貸出しの内容

イ）講習会終了後、１月から３月初までの約２カ月間、前項のコミュニティ講座の開発に参加された方で、タブレット端末を継続に利用したい希望がある高齢者（最大２０名）に対し、タブレット端末及び通信アダプターを貸出し、タブレット端末によるコミュニケーションの増大を図った。

【貸し出し状況】

・田辺市（２０台）

龍神地区　：　４台
本宮地区　：　４台
中辺路地区：　４台
大塔地区　：　４台
新庄地区　：　４台

・みなべ町（４台）

みなべ地区：　４台

・白浜町（１０台）　…　但し研修会用

ロ）タブレット端末の操作方法がわからなくなった場合は、その地区の近隣に居住するつれもてネット南紀熊野の会員が電話又は自宅に赴き直接再指導した。

ハ）タブレット端末の貸し出しを受けた過疎地域に住む高齢者が指定する近親者には、（一財）ニューメディア開発協会が作成したタブレット端末のテレビ電話(Skype)の操作方法書いた説明書をつれもてネット南紀熊野から送付すると共に（一財）ニューメディア開発協会のホームページに操作ビデオを掲載することとした。　このことにより近親者から貸し出し者に対しテレビ電話をかけることでシニアの孤立化を防止できる。

３）コミュニティ講座の内容

イ）田辺市

・龍神地区：「龍神の魅力を発信しよう」（参加：約１０人）

日本の和食が世界遺産に認められ、世界的に日本料理が注目されている中で龍神村の食に目を向けてみた。手間暇かけた心のこもった伝統のある龍神の料理のひとつで、龍神ならではの灰汁づくりから作られてゆく昔ながらのこんにゃく作りにチャレンジした。

・本宮地区：「語り部の案内する旧本宮町内にある熊野古道王子社」（参加：約５人）

あるＴＶ局が関空で日本を訪れた外国人観光客に、今ゆきたい日本の観光地はとアンケートをとったところ、一番が本宮町川湯温泉にある千人風呂で、二番が熊野古道と報じられていた。　そんな魅力のある本宮町にある熊野古道王子社７社と、本宮大社、大斎原、それに本宮温泉郷の写真を加えて紹介した。

尚、説明文は研修会に参加した「語り部」が作成した。

・中辺路地区：「中辺路町の老人施設」（参加：約５人）

中辺路町内にある事業所・個人企業・社会福祉施設などを取材しながら、企業があることで地域の雇用が生まれている姿を記録・紹介した。

・大塔地区　：「ふるさとを見直そう」（参加：約１５人）

参加者を4班に分け「ふるさとを見直そう」というテーマで各班で具体的な活動テーマを設定し、パワーポイントを使ってタブレット端末で鑑賞できるコンテンツに仕上げた。

各班で設定したテーマ：1班→半作嶺に登る風景の記録を紹介
2班→冨里の食材を紹介
3班→普段余り注目されていないが値打ちのある場を紹介
4班→4年半にわたって投稿されたブログから富里の四季を紹介

・新庄地区　：「新庄ぎおんさんの夜見世」（参加：約１０人）

新庄町で江戸時代末期から続き、戦後からは、家の軒先に野菜や草花で作った飾り物を展示する全国でも珍しい夏祭り（新庄ぎおんさんの夜見世）の模様を取材しタブレット端末でも鑑賞できるコンテンツに仕上げた。

ロ）みなべ町

・みなべ地区：「過疎地に住む高齢者の孤立化支援に向けて取り組むこと」
（参加：約５人）

タブレット端末の研修サークルを続けながら参加者と共にみなべ町清川地区に残る「獅子舞」の記録、「神社」の紹介をするコンテンツを作った。

４）コミュニティ講座の記録

コミュニティ講座づくりは、６地区で行ったが、各地区類似した記録となる為、ここでは代表して龍神、大塔（冨里）の２地区を事例として示した。

イ）田辺市龍神地区

平成26年度ＷＡＭ助成事業報告～過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業～

（コミュニティ講座）

１、地域名　龍神地区

２、会場名　龍神教室

３、参画者氏名

寒川喜代子	手谷せい子
松本　淑子	寒川　賀代
松本千恵美	鈴木久美子
反町　文代	

４、講座名

昔ながらのこんにゃく作り

５、講座制作の背景

日本の和食が世界遺産に認められ、世界的に日本料理が注目されている中で龍神村の食に目を向けてみました。手間暇かけた心のこもった伝統のある龍神の料理を考えた時、丁度こんにゃくのアク作りをしている人が居ると聞き、龍神ならではのアク作り地域独特の昔ながらのこんにゃく作りをすることに決定しました。

６、講座の内容

1. 灰湯作り(梅の枝焼きから)
2. こんにゃく作りの実習
3. 手作りこんにゃくを使った調理

（タブレットを使って撮影する。写真、動画）

７、特記事項（コミュニティ講座から）

昔ながらの食について（郷土食等）関心を持つ人が予想以上に多いことに気づきました。難しいと思っていたタブレットの学習が楽しくできた。今後もこんな会を続けていきたい。次回も声をかけてほしいとの声がおおかった。

ロ）田辺市大塔・冨里地区

平成26年度ＷＡＭ助成事業報告～過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業～

（コミュニティ講座）

１、地域名　大塔

２、会場名　富里

３、参加者氏名

裏豊彦	杉原盛紘	倉渕勝也
上田波子	中村優子	梶原優一
谷本一美	阪本和子	山本喜久代
森内信子	赤木範子	堅田清子
中村美恵	中瀬幸美	田上幸子
新谷須磨子	新谷忠弘	

４、 講座名

コミュニティ講座（ふるさとを見直そう）

５、 講座制作の背景

パソコンサロンのメンバーの多くがタブレット講習を受講したことから、そのまま横滑りの
新規参入者を加えてのコミュニティ講座を始める。
タブレット借り入れ台数が6台、個人持ちが4台併せて10台のため、パソコンタブレット
使いで運営する。

６、 講座の内容

講師2名を含めて18名を4班に分け「ふるさとを見直そう」というテーマで各班で具体的
テーマを設定する。1班は近くの半作嶺に登り風景の写真。 2班は里の食材を調べ報
3班は普段余り注目されていないが値打ちのある場所を紹介。4班はパソコンサロンで
にわたって投稿しているブログから富里の四季を見つける。

７、 特記事項（コミュニティ講座から）

少しずつ方向付けを示しながら（毎週終了後にタブレット通信を発行）それぞれの班に任
りの形で進める。
講座開催の時だけでなく、積極的に取り組む姿がみられ、まさにコミュニティ形成を実感

７、参加者の声

１）田辺市龍神地区参加者の声

田辺市龍神地域の人の声　…研修会参加とコミュニティ講座づくり…

1、　難しいと思っていたタブレットの学習が楽しくできました。

2、　サポーターを引き受けましたが自分自身の学習不足が不安でした。

3、　他の地域の研修会に参加させてもらい大変勉強になりました。

4、　学習に来ている年配の方が意欲的で見習うことがたくさんありました。

5、　サポーターをしながら色々見習って私達の方が教えていただくことが多くありました。

6、　みなさんと楽しく交流でき苦になるどころか嬉しくサポーターに行かせてもらいました。

7、　人に教える立場になって自分自身の学習不足が良くわかり責任を感じ真剣に取り組むことができました。

8、　うまく説明できて喜んでもらった時は大変うれしくやりがいを感じました。

9、　コミュニティ講座に取り組んだことはしんどい面もありましたが得るものが、沢山ありました。

10、　食に対して関心のある人が多いことに気づかされました。

11、　コミュニティ講座を通じて大勢の人と交流ができて親しくなりました。

12、　今後もこんな会を続けてゆきたい次も声をかけてほしいとの声が多くありました。

13、　コミュニティ講座を終了してからも参加された家を訪問させてもらったり、出会った時に話がはずんだり、つながっていることを楽しく感じています。

14、　コミュニティ講座を終了したあと、「コンニャク作りで作った料理を家でも作ってみたで！」と出会った時に報告してくれたり、「又一緒に何かしたいよう！」と嬉しい声を聞けて良かったと思っています。

１）田辺市大塔（冨里）地区参加者の声

田辺市大塔（冨里）地域の人の声　…コミュニティ講座づくりを終えて…

「もし優勝したら・・・」コミュニティ講座作品を鑑賞して思わず出てきたメンバーの独り言でした。

１、自分たちが作品作りの主役
作品が良かったという意味ではなく、自分たちが写真を撮ってきて、その写真がごく僅かなアニメーションのおかげでまるで生き物のように現れたり、隠れたりしながら新しいものへと変わっていく、　　会員にとって初めてといっていい体験だったのです。

２、タブレットを自分で使えるようになりたいという思いが強い
二ヶ月のタブレット講習を終えて、コミュニティ講座に突入、希望者は１８名と多く、この会員たちは　今、とても新しいと感じているタブレットを自分の力で操れるという期待感でこの講座に参加してくれました。　スキルのことを考えていてもどうにもならない。みんなで知恵を出し合ってこのタブレットが生きるように考えよう、そのために自分たちが１番よく知っている地元のいいところ、自分たちが親しんできたものやこと、知っているんだけれどきちんと整理して見直してみたいものをこのタグレットの力を借りて発表しようと話し合いました。

３、役割分担と工夫
タブレットは、借り入れ６台と自前４台の計１０台でしたが、少人数のグループに分け（各グループにタブレット２～３台）これをうまく活用できるよう分担を決めるなどの工夫をしながら各グループでテーマを決定しました。抽選で分けたグループでしたが、それぞれのグループに適材適所と言っていい人物が配置されグループでの役割分担もスムーズにいきました。

４、各班のテーマ
１班　近くの半作嶺に登ってそのようす。頂上から見たようす。登る姿…そんなところを表したい。山登りが得意な男性が中心になって計画立案、案内、注意事項などを徹底する。
２班　里の食材を紹介する。旬が外れている食材はネットなどで調べよう。手に入るものは何とかしよう。調理もし、試食もしよう。作り方も写真で紹介しよう。
３班　富里と言えば「乙女…」だけではない。民俗資料館、夫婦滝、　雨乞の滝、法傳寺無縁塔を訪ねて知らせよう。
４班　富里サロン開設以来のブログから富里の季節だよりを写真で紹介しよう。千枚を超える中から選ぶのは大変だけれどがんばろう

５、写真を中心にして PowerPoint でプレゼンを作る。
ふたつのグループは PowerPoint　OK だったが、OK でないグループはこちらの勉強も付随してきたためちょっと仕事量が増える。写真選び、その写真の配置、アニメーションはどうするか、与えられている発表時間も大きなストレス材料となる、と悩みながらも何とかできあがった。

６、発表前にみんなで鑑賞してみよう。みんな感激する。冒頭の独り言が生まれた！

７、これからどうしますか。続けますか？　同好会は終了ですか？
参加者は全員がパソコンを持っており、富里サロンの会員であるが、コミュニティ講座の中で中心的に活躍してくれた２～３名の新しいメンバーも含めて今後も続けようと決定しました。
今回の作品を DVD に書き込む、たくさん撮影した写真で絵はがきを作る、PowerPoint を勉強するなど誰かにやってもらうのではなく、ひとりひとりが学習する課題も整理しています。

８、実行委員所見

１）佐藤　周（和歌山大学経済学部教授：実行委員長）

NPO 法人つれもてネット南紀熊野受託 WAM 助成事業
「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援」実行委員会参加報告

シニアはもっとタブレットとお友達になろう!!

和歌山大学経済学部 佐藤 周

2014 年度、ICT の業界ではタブレット端末の販売台数がパソコン(デスクトップ、ノート、ハイブリッド)を越え、新たなステージに入ったと話題になりました。

多くの人にとっての情報端末はどこにでも持ち運べ、すぐに起動でき、どこでも Internet につながるタブレットが主役になったのです。

タブレットにはカメラが内蔵されており、どこでも簡単に映像(静止画、動画)を Internet に Upload できるという特性もあります。

スマホでは小さすぎて操作性が悪いし、パソコンは価格も高いし、複雑で使い勝手が悪いとして敬遠していたシニアにとっても ICT の便益を得る上での大きな福音になるでしょう。

では、このようなタブレットをシニアの方々はどのように使っていったら良いのでしょう。

ICT は自分の楽しみのために使うというのでも十分ですが、さらにその機能を活かして地域の課題を解決するための道具として使うこともできます。

和歌山もその例に漏れませんが、少子高齢化、過疎化が急激に進行しており、これへの対応も行政だけでなく、地域のみんなで考え行動する必要があります。

田舎で特に問題になっている買い物、医療、地域づくり、防災、見守りといった人手のかかるサービスがタブレットを使うと劇的に改善されるでしょう。

ただ、問題は、これらの ICT をうまく使いこなすためには機材を導入し、ネットワークに接続するだけでは不十分で、それを有機的に連結する人の和・ネットワークが不可欠です。

今回、つれもてネット南紀熊野の皆さんは、タブレットを導入するための初歩的な教育を一緒に行いました。

その過程で講師と生徒さんの間で多くの話し合いもあり、どこにどのような人がいて、どのような生活をしているのか、どのような問題を抱えているのかという地域問題解決のための第一歩、実態認識を共有することができたはずです。

ICT や情報端末は単なる道具であり、万能ではありません。

田舎でゆとりある生活を満喫できるシニアの方々はタブレットをきっかけにして、一緒に勉強し、さらにみんなで一緒に考え、行動し、感動するのが本当の目的です。

タブレットに使われるのではなく、このまま使いこなしていっていただきたいですね

一緒に頑張りましょう。

２）小松　実（田辺市情報政策課長）

ＮＰＯ法人つれもてネット南紀熊野受託ＷＡＭ助成事業
「過疎地域に住む高齢者の孤独化防止支援」実行委員会参加報告

田辺市企画部情報政策課
課長　小松　　実

田辺市は、平成20年度までに山村地域における「テレビ難視聴地域の解消やインターネット環境の改善、携帯電話不感地域の解消など高度情報基盤の整備をはじめとした快適な生活環境づくり」を実現するための施策として、地域情報通信基盤整備事業及びケーブルテレビ事業を実施し、情報通信環境における地域的情報格差（デジタルディバイド）の解消を図りました。

しかしながら、この情報通信基盤整備は、山村地域等の諸課題解決のための一要素でしかなく、いかに地域住民が積極的に利用し、コミュニケーションの推進をはじめ、集団的かつ継続的な利用をするか、ということが重要な課題として示されていました。

そのような中で、平成21年度～平成22年度の２か年間、和歌山県のモデル事業として過疎・高齢化が進んでいる山村集落にICT情報交流サロンと呼ばれる拠点を設置し、ICT機器等の利活用に関する講座等を行いながら地域住民同士のネットワークづくりや各地域間でのネットワークづくり、地域内コミュニティづくりによる地域情報化、ビジネス展開等による地域活性化を図る取り組みを行い、事業終了後においても各地域で引き続きサークル活動として継続されています。

スマートフォンやタブレット等の端末が普及しその需要も拡大している近年の状況の中、今回、ＮＰＯ法人つれもてネット南紀熊野が、独立行政法人福祉医療機構（ＷＡＭ）の助成事業「過疎地域に住む高齢者の孤独化防止支援事業」を受託することにより、山村集落に住む高齢者等がパソコンに代わる新たなツールとして、タブレット端末を扱う機会の提供ができ、今後の地域での広がりや習熟に期待しています。

ただ、タブレット端末は持ち運びができる便利さが特徴であるが、携帯電話事業者がサービスを提供するエリアもしくは公衆無線ＬＡＮ（Ｗｉ－Ｆｉ）サービススポットでなければインターネットに接続できないため、いつでも誰もが利用できる公衆無線ＬＡＮ環境の整備が必要です。

そのため市は、平成27年度に市内の公共施設等40か所に公衆無線ＬＡＮ（Ｗｉ－Ｆｉ）アクセスポイントの設置を計画しているところであり、地域住民の積極的な利活用に期待しています。

３）川村　健三（ニューメディア開発協会シニアネット推進グループ部長）

NPO 法人つれもてネット南紀熊野受託 WAM 助成事業
「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援」実行委員会参加報告

一般財団法人　ニューメディア開発協会
企画・シニアネット推進グループ
部長　川村　健三

一般財団法人ニューメデイア開発協会は元々経済産業省の外郭団体であり、平成１２年より旧通産省が提唱した「メロウ計画」にもとづき「シニアがシニアに教えることによりシニアにＩＣＴ機器を普及させる」という理念に基き「シニア情報生活アドバイザー制度」を創設し、この趣旨に賛同いただける団体において「シニア情報生活アドバイザー」を養成する講座を開設いただき、当協会は認定試験（筆記、実技、プレゼンテーションの３科目）においては当協会より審査員を派遣し、その能力のある方を「シニア情報生活アドバイザー」として認定して参りました。

ＮＰＯ法人つれもてネット南紀熊野殿におかれましては約８年前位からシニア情報生活アドバイザーを養成いただき現在約３０名程度を養成していただいております。　近年は特に田辺市の過疎地域において本アドバイザーを養成していただいており、小生が本認定試験におじゃました際、「つれもてネット南紀熊野」代表から「このような過疎地域でこそシニア情報生活アドバイザーが活躍して地域の活性化に役立たせたい」との熱い思いを語られ、小生もぜひ実現したいと思っておりました。

その後、アップル社より iPad が発売され、シニア層にもタッチするだけで使用できるのでパソコンよりも使い易いという意見が多くなりました。　どうやらシニア層も銀行のＡＴＭの操作で使用についてはアレルギーが無いようです。

それを受け、「つれもてネット南紀熊野」から過疎地でのシニアの方にタブレットを使用し、テレビ電話によるコミニュケーションの向上、ネット検索による情報収集等の為にぜひタブレット講習を実施したいとのご相談があり、Ｈ２６年度において独立行政法人福祉医療機構（WAM）殿の社会福祉振興助成事業に応募され、「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業」として採用されました。当協会も実施に当たっての検討会への参加、研修会講師への講習、テキスト、ビデオの作成等のお手伝いをさせていただきました。

本事業の特色としては、

１）各地域に住むシニア情報生活アドバイザー等による高齢者に配慮した研修
２）その地域に住むシニアだけではなく、その子供等の近親者へのスカイプの操作手順のテキスト、ビデオ作成
３）研修会終了後、各地域のシニア情報生活アドバイザーによる成果発表

等があげられると思います。

３月１４日の各地域のシニア情報生活アドバイザーによる発表ではタブレット研修の成果に基き、その地域の観光案内（熊野古道の紹介）、旅行計画及び実行、生のこんにゃくを自分たちで作成し、こんにゃくピザとか新たなレシピの作成などが発表され、本研修を通じて皆様のコミニュケーションの輪が広がったと思います。　ただ、今回はＨ２６年度単独でありこのような事業は永続されてこそ効果が多くなると思われ、今後とも何らかの形でお役に立てればと思います。

４）山根　明（NPO 法人シニア SOHO 世田谷　代表理事）

NPO 法人つれもてネット南紀熊野受託 WAM 助成事業
「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援」実行委員会参加報告

NPO 法人シニア SOHO 世田谷
代表理事　山根　明

今回プロジェクトの実行委員の末席に加えていただき有難うございました。
とてもいい勉強の機会を与えていただきました。
平素の活動の場所は首都圏です。
どうしても人・物・金のある「東京目線」で物事を考えがちです。
「南紀白浜」といえば昔むかし「熱海」や「別府」と並んで新婚旅行のメッカだったイメージが抜けません。
今でも「熊野古道」と並んで有名です。
観光地のイメージがとても強いです。
正直申しまして当初は今回のテーマである「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止」がピンときませんでした。
イメージが払しょくされたのは、今年の１月１６日に見学させていただいた冨里連絡所（町村合併で田辺市、昔大塔村）での皆さんとの意見交換でした。
講習会場６か所がすべて川沿いで海岸線から結構入り込んでいる。
地すべりに遭うと孤立化必至。過疎地域であることがよく理解できました。
「百聞は一見に如かず」とても勉強になりました。
印象に残ったのは、元校長先生の世話役活動です。
世話役、取りまとめ役の存在です。
地域のリーダーの存在です。
まだまだパソコン講習会が健在でした。
「東京目線」からはびっくりでした。
そして敬服したのは田辺市さんが親身に NPO を支援されていることです。
すばらしいです。
そして和歌山大学の佐藤　周実行委員長のリーダーシップ。
NPO・田辺市・和歌山大学のコラボ素敵です。
これからも地域課題の解決の取り組みを続けてください。
今年もいい提案でＷＡＭに挑戦してください。
ご健闘をお祈りします。
NPO 法人シニア SOHO 世田谷も今年も挑戦します。いい学びの機会を有難うございました。

５）福森　宏昌（NPO 法人シニアネット光　代表理事）

NPO 法人つれもてネット南紀熊野受託 WAM 助成事業
「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援」実行委員会参加報告

NPO 法人シニアネット光
代表理事　福森　宏昌

今回の WAM 助成事業を推進するため、過去に WAM 助成事業に取り組んだ経験や、タブレット講座を実践している経験などを参考にしてもらうため、実行委員として参加した。

今後、全国各地で、高齢化の進展とともに人口減少が予測されている。特に地方においては、過疎地域に住む高齢者の買いもの支援や安否確認など多くの課題を解決していく必要がある。

インターネットが普及した現在においては、タブレットは、離れて生活している高齢者同士をつなげてゆくための、有効な道具である。

今回の事業は、タブレットが高齢者にとって、交流の場を提供したり、社会参加を促進するための有効な道具であることを実証するものであった。

特に、河川流域に注目し、地域の公共施設を交流拠点として、タブレットを活用して、地域毎の特有な課題の解決へ取り組む先進的な事業であった。

「コミュニティ講座」については、今回の事業を、更に充実したものにしてゆくことになるが、高齢者の認知症予防や安全・安心確保のための防災への対応及びさらには地域資源の活用の視点で、マップを活用して、地域の情報共有と地域の資源を活用していくことが重要であることも分かってきた。

これから、全国的に地域ケアシステムを構築し、それを有効に活用していく必要があるが、そのためにも高齢者の自主的なつながりつくりが大事であり、今回の事業の成果が、全国各地の高齢過疎地の孤立防止や地域づくりに活用されていくことが期待される。

そのためには、情報の発信と共有が鍵を握っている。SNS を活用した、タイミング良い情報発信や情報交流の輪が広げてゆくことも必要である。

また、今回の事業を発展させるためには、シニア情報生活アドバイザーのネットワークを発展させて、さらに、活用のノウハウの蓄積や活用のレベルアップを図ってゆくことが重要である。

６）道本　浩司（NPO 法人わかやま NPO センター　理事長）

NPO 法人つれもてネット南紀熊野受託 WAM 助成事業
「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援」実行委員会参加報告

NPO 法人 わかやま NPO センター
理事長　道本浩司

田辺市における「タブレット端末を使った地域支援研修会」の現場に実行委員として参加して、最初に驚いたことは、高齢者がタブレット端末を難なく操作する光景でした。わたし自身は現在 68 才で永らく ICT 業界に関ってきたのですが、今回の過疎集落での高齢者のタブレット端末の操作と利活用の現場の活動の様子は、非常にインパクトのあるものでした。最終日の成果発表時のプレゼンテーションにおいても、堂々と自信に溢れた発表にも大きな感動を覚えました。これまでの ICT に対する思い込みは、如何に「常識的」であったかを知らされる事となりました。この事業の実行委員として参加させて頂いたことを感謝すると共に、これからの ICT による地域活性化の活動を更に深めて、もっと広く積極的な取組が可能である事を知らされました。

勿論、永年に渡って、この地域に根差した活性活動を続けてこられた「NPO 法人つれもてネット南紀熊野」さんのサポートと指導があっての今回の成果だと感心しました。地域に密着した信頼と技量は、一朝一夕にできるものではあり得ないと思います。

例えば、「龍神コミュニティ講座」においても、「龍神の魅力を発信しよう」と昔ながらのこんにゃく作りをテーマにした作品は、「プレゼンテーション」自体の上手さもさることながら、なぜそこに行き着いたのかという「経緯や流れ」が上手く表現されていて、観るものを一緒に巻き込んで大いに感動させたことも特筆すべきことでした。「みんなで一緒に作戦会議」をする様子も表現されていましたが、この裏には、指導者のレベルの高さと、逆に指導を受ける側とが「一体となって活動してきた様子」がひしひしと感じられました。

このような発表を見て、私自身が大いに力付けられました。ICT が地域に貢献できる一番分かり易い事例であったと思います。この「昔ながらの手作りこんにゃく」を更に発展させて、「ブランド」として素敵な地域の商品（＝お宝）、「地域資源」に育てていく事を祈念しています。

有名なあの四国・上勝町の葉っぱビジネス「いろどり」……高齢者が生き生きとおカネを稼ぐ事例を思い出しました。この田舎のみんなが ICT を使って、「地元の商品」にまで成長させた事例と被さって、大いなる期待と可能性を感じました。

＜今回の ICT 利活用事業の今後について＞

企画書にも既に記載されていることではありますが、今回の事業は、高齢者の社会参加・社会貢献への一歩となると感じています。今後は ICT を利活用して、「横の連携を広げる」ことも大切です。まちおこしの現場では、定番でよく言われる言葉ですが、「よそ者、わか者、ばか者」と言うことがあります。常に新しい目線や、斬新な発想、積極的な行動力が、地域の発展には大きく寄与すると言う基本的な考え方です。

今後は、そのような人達との交流の輪を広めていくことが重要です。その人との輪を繋げて、災害時の「避難経路」作成と情報発信や、「まち歩きマップ」の作成等は、間違いなく地域のコミュニティの発展に寄与することになると思います。

今回の事業の実施期間は短かったけれど、このような活動を更に続けて、地道に伸ばしていくことこそが、「地域を元気にしていくこと」そのものに通じることだと思います。

９、おわりに

１）この事業では、

・研習会への延べ参加者数　　…　６０２名

（講師､サポータ含めると 1,000 人を超える）

・研習会受講者のアンケート回答数　…　４９８件

・開発したコミュニティ講座　　…　６講座

となりました。

つれもてネット南紀熊野が行っている高齢者向けパソコンサークルに参加している方が多くおられましたが、研修会に参加されている皆さんのタブレット端末への関心の高さに驚かされました。

２）つれもてネット南紀熊野では、元気な高齢者向けのディサービスの場として、知的好奇心を潤す場､「シニア・タブレットサロン」の設置を考えています。

高齢化に向けて身体的訓練への参加には積極的であっても、知的訓練への参加には消極的な人が多く見受けられます。

楽しく気軽に参加できることをアピールし、高齢化して動くことが難しくなってからではなく、元気なうちに社会変化に対応できる生活スタイルを身につけてもらうために、今後も高齢者を対象にした地域情報化の支援に取り組んでゆきます。

３）具体的な高齢者向けの地域情報化支援として、ICT を活用しながら「避難マップ」や「ふるさと再発見マップ」づくりで、過疎集落のコミュニティ維持、さらには過疎集落創生に向けて地域の若者を巻き込みながら取り組んでゆきます。

４）WAM 助成事業を進める中で、サポータとして高齢者のケアーや ICT に堪能な高齢者が身近にいることがポイントになることをあらためて痛感しました。

今回の事業は、ICT に特化したものですが、１人の高齢サポータが高齢の研修会参加者２～３人を支援してきました。

高齢化が進む中で、老老介護の必要性が増し、ICT 分野でも、ボランタリーな感性を持った人材の本格的な育成が急務なことをこの事業を通じて強く感じました。